

秋植え球根を植えよう



綾歌普及センター
井口里香

十月の庭仕事は、春に花咲く球根類の植え付けです。さあ、来年の春のフラワーガーデンはどんな花で楽しませようか。

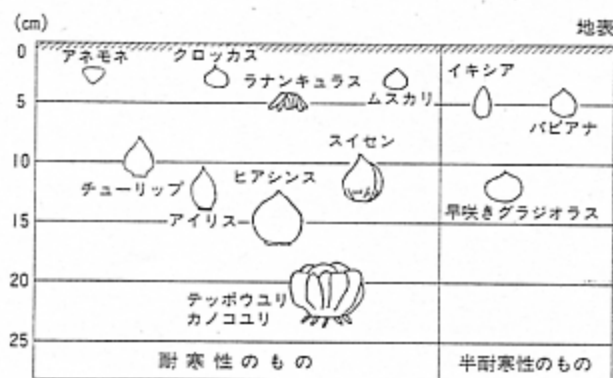


図1 球根の植え付けの深さ

● 植え付け時期
植え付け適期は十月～十一月です。半耐寒性のもは早植えせず、できるだけ遅く植え付けるようにしましょう。例えばグッチアイリス、早咲きグラジオラスなどを早植えすると年内に葉が伸びて霜害を受けやすく、それによって傷んだ葉から球根が腐敗することがあります。大球のものを遅植えにし、土中深くに植え込むと、年内に葉が出て霜害を受けることはありません(図一)。

● 植え付け方

庭植えの場合の球根の植え付けの深さと間隔は、一般に、球根の高さの二倍の土が覆土される深さで、球根との間隔はその間に三つの球根が入る程度です。

植え付け場所は、二〇～三〇cmの深さ(球根の高さの五～六倍)に掘り、堆肥や腐葉土、基肥(苦土石灰一五〇～二〇〇g/m²、マグアンプK一五〇～二〇〇g/m²)を入れよく耕しておきます。

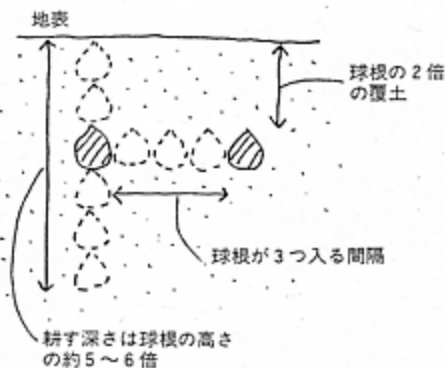


図2 球根の植え方

このとき、植えっぱなしにしておいたスイセンなどの球根があることを忘れて耕し、球根をスコップで真二つにすることがよくあるのでくれぐれもご注意ください(図二)。

鉢植えの場合は、土の量が限られるので根が十分張れるよう、球根の頭が出るか、深めの鉢なら一～三cm程度に土をかぶる浅植えにします。

いろいろな球根類を植えたいたのですが、同一種類のものを集団で植えると美しさが増します。特にチューリップなど反対色や同色の品種を二、三種にしぼって、一品種十五球以上をまとめて植えた方がいいです。

また、ワスレナグサやパンジーなどの草花との混植も見栄えがします。このときは双方の開花期や草丈、配色に注意してください。

● 植え付け後の管理

追肥は春になって芽を出すころに、化成肥料一坪当たり一〇〇gを球根と球根の間に土と混ぜて施します。

水やりは、冬でも寒風などで表土はカラカラに乾くことがよくあります。特にプランターや鉢植えの場合はよく注意し、土が乾けば暖かい日の午前中になつぷりと水やりをします。

●開花後の管理

開花後は、花がらごと取り除き、葉が枯れる六月までは乾燥させないよう水やりを行い、球根をできるだけ肥らせませす。しかし、チューリップは球根の肥大適温が十三〜十五℃と言われ、二五℃以上続く暖地では十分に肥大することはできません。日除けなどしてできるだけ涼しい環境をつくってあげましょう。

●掘り上げ時期

葉が三分の一以上枯れたら球根を掘り上げます。掘り上げについては、チューリップ、フリージア、ラナンキュラスなどのように毎年行うものと、クロッカス、スイセン、ヒヤシンス、ムスカリ、ユリなどのように数年間はそのまましておいたほうが花立ちが良いも

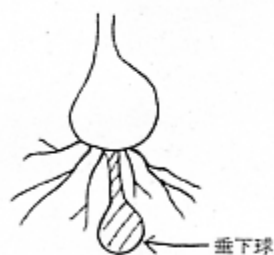


図3 チューリップの垂下球

のもあります。

●ちよつと、保存してですか？

チューリップの球根を掘り上げたとき、アレって思ったことはありませんか。植えた球根の下にまた一つ小さな球ができることがあります。これは、垂下球（または、ちようちん球）と言います。チューリップの原生地は乾燥地帯で、特に夏季はほとんど雨が降らず、砂漠の砂嵐で球が地上に露出する恐れがあります。その危険を避けるために土中深くもぐる性質を持つていて、というのです（図三）。

垂下球は小球を植えたときにできやすく、一株から二つも三つもできることがあります。

今が見ごろ

旬の花

正明 河江

ホトトギス



ホトトギス、と聞いても若い人のなかには、見たことが無い人もあるかもしれません。里山の散策や和風の庭には、けっこう馴染みの深い花でもあり、茶花としても、よく用いられます。

もともと地味な花ですが、普通

種（立性で、赤紫の花）の他に、上臈ホトトギス（垂性で黄花）のように上品な色や、育成品種にはピンク（藤娘）の可憐な花もあります。

花名の由来は、ホトトギス（香川の界民鳥でもある）の胸羽と、花卉（普通種）の模様が似ていることからきたものと、元禄年間の「草花絵全集」に解説されています。

ところで、花言葉は花姿に似ず「永遠にあなたのもの」と情熱的ですが、どこからイメージされた

のでしょうか。もしかすると、恋の鳥ホトトギスの想いかもしれせん。

季語では、ホトトギスに似た草として、時鳥草、杜鵑草とも書きますが、別名の油点草（胸模様の水に浮く油に似ている）は、ユテソウと読んだほうが良さそうです。

園芸では、鉢植えでも楽しみ、株分け、押し芽、実生で増やします。

野の庭に山が匂ひ米時鳥草

前田正治